

東京都「区部」の 軟弱野菜の栽培動向

東京都農林水産部
農芸緑生課専技

小林 五郎

1. はじめに

軟弱野菜は、近年特に注目されてきている野菜で、その種類の豊富さとともに、よりよい品質と鮮度の高いことが、ますます要求されてきている野菜である。そこで軟弱野菜の産地として知られる東京都区部の栽培現況について、その概略を紹介してみたい。

2. 軟弱野菜の栽培上の特殊性

栽培上の特殊性をあげてみると、(1)栽培期間が比較的短い。(2)施肥は殆んどが元肥だけで、追肥を省略できる。(3)他の野菜に比べて、病害虫の発生が少ない。(4)栽培期間中に支柱をたて、誘引、摘心などの管理が不要である。(5)単位面積当りの栽培本数が多い。(6)栽培法が比較的簡単で容易である。(7)生産物の収穫・調整・荷づくりに全栽培労力の70%以上かかる。(8)周年栽培のできるものが多い。

などがあげられる。

3. 軟弱野菜の経営上の特殊性

経営上の特殊性をあげてみると、

(1)生産費は他の野菜に比べて安い。(2)所得率は野菜のなかでもっとも高い。(3)土地の高度利用ができる。(4)施設

の導入により年間労働配分の均一化が図れる。(5)小型機械・器具の導入で、作業の省力化が図れること。

などがあげられる。

4. 軟弱野菜の経営のタイプ

経営形態には、大別すると次の3つのタイプになる。

(1)単品専作タイプ

ツマミナ(春～秋)、コマツナ、シントリ、ワケネギ、サラダナ、ツمامモノ類

(2)少品目専作タイプ

ツマミナ+ジュンギク、コマツナ+ホウレンソウ、エダマメ+コマツナ、エダマメ+カリフラワー+コマツナ、キャベツ+カリフラワー、コマツナ+パクチャイなど。

(3)多品目専作タイプ

5品目以上の軟弱野菜を組み合わせた栽培など。

5. 産地の土地条件

立地条件としては、

(1)市場までの距離が10～15kmと極めて近い。(2)地下水位が高く、干ばつをうけにくい。(3)沖積土が多いため、品質がよい。(4)海や大きな川に近いので、気候が温暖である。

などがあげられる。

6. 区部で栽培される軟弱野菜の種類

都中央卸売市場の主要軟弱野菜の入荷状況と占有率の推移は、第1表のとおりで、昭和30年当時は占有率の高い品目が多かったが、昭和55年になると、都市化による耕地面積の減少や他産地の抬頭などで、占有率はかなり

低下してきているが、そのなかにあって、ツマミナ・コマツナ・タカナの3品目は50%以上と占有率が高い。

次に栽培の概況は第2表のとおりであり、このほかにアオジソ、ナバナ、ツクパネ、本アサツキ、ワケネギ、青ミツバ、エンダイブ、リーキ、ビート、細根ダイコン、ミニダイコン、亀戸ダイコン、美葉ラディッシュ、葉ショウガ、ミニオクラ、水せり、パクチャイ、紅葉台などいろいろな野菜が栽培されている。

都中央農業改良普及所は、昭和60年を想定し栽培面積を推定しているが、今後増加が期待できるものとしてコマツ

【第1表 都中央卸売市場における主要軟弱野菜の入荷状況(含有率の推移)

品 目	昭和30年			昭和40年			昭和50年			昭和55年			
	都内産 入荷量	総入荷量	都内産 占有率	都内産 入荷量	総入荷量	都内産 占有率	都内産 入荷量	総入荷量	都内産 占有率	都内産 入荷量	総入荷量	都内産 占有率	都内産1kg当 たりの単価
ツマミナ	t 614	t 636	% 96.5	t 2,431	t 2,556	% 95.1	t 1,503	t 1,852	% 81.2	t 1,208	t 1,471	% 82.1	円 175
コマツナ	2,422	2,822	85.8	13,190	16,843	78.3	8,752	12,452	70.3	7,885	11,075	71.2	164
タカナ	—	—	—	—	—	—	1,104	1,507	73.3	850	1,353	62.8	108
ツケナ	1,857	2,127	87.3	6,884	8,817	78.1	1,189	2,177	54.6	783	2,091	37.4	114
ワケネギ	336	380	88.4	387	613	63.1	780	2,172	35.9	745	2,073	35.9	390
ジュンギク	1,564	1,637	95.5	5,378	6,784	79.3	1,562	7,677	20.3	712	6,403	11.1	222
ホウレンソウ	4,834	26,554	18.2	2,754	34,581	8.0	2,093	29,284	7.1	2,861	32,290	8.9	260
アサツキ	20	28	71.4	111	180	61.7	62	159	39.0	54	680	7.9	1,668
カラシナ	82	232	35.3	409	2,445	16.7	177	1,327	13.3	174	1,065	16.3	123
サラダナ	—	—	—	498	1,131	44.0	143	1,518	9.4	115	1,831	6.3	501
コカブ	8,187	23,584	34.7	3,945	33,545	11.8	504	27,063	1.9	491	30,680	1.6	89
その他葉菜類	631	775	81.4	870	1,439	60.5	342	1,645	20.8	544	1,583	34.4	258
カリフラワー	99	283	35.0	2,004	6,762	29.6	3,060	13,275	23.1	3,382	13,858	24.4	81
ブロッコリ	5	12	41.7	31	253	12.3	123	2,265	5.4	232	3,538	6.6	258
エダマメ	622	1,628	38.2	1,164	6,781	17.2	848	12,717	6.7	757	11,258	6.7	268
ホジソ	—	—	—	65	71	91.5	58	141	41.1	22	96	22.9	—
メ 類	—	—	—	9	34	26.5	6	48	12.5	7	157	4.5	—

(都中央卸売市場年報) ※ツケモノ類として

ナ・ハウレンソウ・シントリ・ワケネギをあげている。

7. 軟弱野菜栽培上の留意点

(1) 品 種

近年、各種苗会社や公的機関の品種に対すとりくみには、めざましいものがあり、年々新しい品種が登場して、生産者はこちらのこと、指導の立場にある人までも、品種の選択に苦労している。特にコマツナ・ハウレンソウ・エダマメ・アサツキ・カリフラワーなどは新しい品種が多く出ている。

第2表 区部の主な軟弱野菜の栽培面積と産地

Table with 5 columns: Item, Total Cultivation Area (55/60 years), and Production Areas (Kawachi, Katsushika, Adachi, Rinsen, Yamanashi, Yamaguchi). Rows include items like Tsumamina, Komatsuna, Hourensou, etc.

※ツマモノとは花穂、東穂、アオメ、ムラメ、モノメ 総栽培品種は中央農業改良普及所推定

これら新品種の出現や品種に対する取組が、また市場での高値に結びつくことを考えると、新品種に絶えず関心をよせることが必要で、良い品種を1日も早く導入する努力が望まれる。しかし、一方では新しいものに追われることになるので、そこは慎重な対応が肝要である。

(2) 土壌改良と施肥

①土壌改良……都内区部でも、特に軟弱野菜の栽培の多い江東3区(江戸川・葛飾・足立)は昔からある面では低湿地であったため、低いところが多く、このため道路整備が進むにつれて、水田はもちろんのこと、畑まで低くなるケースが一般的である。

このため赤土などを客土して、地盤を高くしている。さて、客土畑となると、土の出どころにもよるが、土壌改良が必要となる。一般的には、土壌診断をして、分析結果により、磷酸質肥料や他の土壌改良資材を投入して土壌を改良しているのが実態である。

第3表 コマツナ・ハウレンソウ・ペカナなどの施肥例

Table showing fertilizer application examples for Komatsuna, Hourensou, and Pekana. Columns: Example, Fertilizer Name, Application Amount, N, P2O5, K2O.

②施肥……軟弱野菜は、栽培上の特殊性のところで述べたように、栽培期間が比較的短かいために、速効性でしかも有害成分を含まず、連用による害のない肥料が望まれる。この意味からすると、硝酸態窒素を含んだ硝酸系の肥料が好適である。

コマツナ、ハウレンソウ、ペカナなどの、栽培期間の短い葉ものの施肥例をあげてみると、第3表のとおりであり、磷酸質肥料を土壌改良剤として考えて、それに葉菜類にもってこいの燐硝安加里を使った事例が多い。

また、葉ものより少し生育期間の長いサラダナの施肥例をみると、第4表のとおりで、元肥は第3表の葉ものと同じで、追肥に尿素を使用する例が多い。

いずれにしても肥料を上手にきかせるには、栽培期間にあわせたものを使うのはもちろんのこと、土を荒さない肥料を使うことが経営的にみても肝要である。

(3) 病害虫防除

産地が古くなるほど、連作障害をはじめ障害が多く、問題となると共に病害虫の発生も多い。

コマツナ、ペカナなどのアブラナ科野菜は、病害の出ていく野菜の代表例としてあげられていたが、数年前からこれらのアブラナ科のものにも、白さび病や炭そ病が発生するようになり、また虫害では、コナガの発生が毎年問題となってきている。

これらからもわかるように、連作や環境などの変化により、病害虫発生頻度が高くなってきているので、それだけ神経を使うと共に、早期発見、早期防除に徹底する必要がある。特に病害の場合には、作型や気象条件により、発生が予測できるので、予防散布が重要である。

(4) 作業の省力化

軟弱野菜栽培全体の作業の省力化を図るために、各作業の省力化をするための機械・器具が出まわっている。

播種機(1条用~多条用)をはじめ、収穫後の結束機の利用や結束テープ(商品名カラータイやポリテープなど)による省力化を図るとともに、荷姿もよくしたい。

また結束後の水洗いなども、いろいろな方法があり、短時間にきれいになるように、考えていきたい。

(5) 鮮度保持

昭和40年代後半から、軟弱野菜の品質低下を防ぐため、予冷庫が導入され、普及も急ピッチですすんでいる。鮮度が生命の軟弱野菜であるだけに、予冷庫を導入して鮮度はもちろん、出荷調整用としても利用したい。

第4表 サラダナの施肥例

Table showing fertilizer application examples for Saladina. Columns: Fertilizer Name, Application Amount, N, P2O5, K2O. Rows include base fertilizer and topdressing.